

京都を知り、世界を知る —時代を超えた京都の魅力—

村上友彩



あなたは、400年前の祇園祭を想像することができますか？今年、2015年の祇園祭も大きな賑わいを見せ、開催期間中の1か月間の来場者数は延べ180万人といわれています。私も実際に足を運んだのですが、日本人のみならず多くの外国人観光客がおり、皆して駒形提灯の飾り付けられた豪華な山鉾をもの珍しそうに目を輝かせながら写真を撮っていたのが印象的です。

実は約400年前にも、その祇園祭に心を打たれたあるヨーロッパ人がいます。ガスパル・ヴェレラ（1525-1572）師は、ブラガンサ編『イエズス会日本通信』の中で、京都は特に祇園祭について取り上げています。それは詳細なもので、鉾を出す町内の様子や鉾が美しい織物で飾られていること、笛や太鼓の音、人々の行列などが記され、現代と同じように当時から祇園祭は外国人をも魅了しているのがうかがえます。

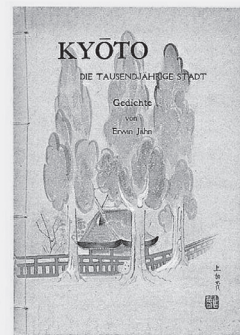
1994年に平安建都1200周年を記念して行われた展示会「古都の心にふれた西欧のひとたち」では、西欧人が日本を研究した原著を集めたコレクション『ニッポナリア』『我が国の対外交渉史料』から50冊と古刊地図、『浮世絵コレクション』から25点が出展されました。前に述べた『イエズス会日本通信』もニッポナリアからのもので、ほかにも十七世紀末に日本を訪れたドイツ人医師ケンペルがまとめた『日本誌』など、当時の京都の地理や自然、民衆の生活を書き綴った歴史的貴重資料が図書館に所蔵されています。

京都外国語大学に所属している皆さんは、海外に目を向け勉学に日々取り組んでいることで

京都外国語大学附属図書館稀観書展

平安建都1200年記念

古都の心にふれた西欧の人たち



エルヴィン・ヤーン「京都 千年の町」(1942)

今年、京都は平安建都1200年の記念すべき年を迎えております。今から約450年前にはじめてポルトガル人宣教師が京都を訪れて以来、多くの西欧の人々が入浴しました。そしてなかには、この地の歴史や文化についての印象を書物に残す人々も現れております。彼らが見た昭和前半までの古都、京都の姿を稀観書の世界でお楽しみ下さい。

しょう。そこで今一度、古くから海外と強くつながりのある京都について知識を深めてみませんか？図書館本館1階のレファレンスコーナーには京都関連の本がたくさん所蔵されており、歴史や伝統文化のみならず、京都の隠れ家的カフェやお散歩道を紹介している本など、ジャンルは様々です。ぜひ気になる一冊を手に取り、京都を知り、五感で感じ、日本と世界の歴史的背景を覗いてみてください。

参照 本学図書館展示会目録：「古都の心にふれた西欧のひとたち」平成6（1994）年。

むらかみ ゆあ（英米語学科4年次生）